

30年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 2月1日～ 30年2月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は16社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
入荷動向	スギ	5.0	30.0	15.0
	ヒノキ	6.3	31.3	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	△ 100.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	△ 75.0
消費動向	スギ	0.0	5.0	20.0
	ヒノキ	△ 14.3	14.3	28.6
	カラマツ	50.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	10.0	25.0	5.0
	ヒノキ	14.3	28.6	7.1
	カラマツ	△ 50.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	△ 25.0

・製材用原木の入荷動向は、スギ、ヒノキとも3カ月連続増加。カラマツは2月、3月の横ばいから4月は減少に。トドマツは3カ月連続減少。
・消費動向は、スギは2月の横ばいから3月、4月は増加に。ヒノキは2月の減少から3月、4月は増加に。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは2月の横ばいから3月、4月は減少に。
・在庫動向はスギ、ヒノキとも3カ月連続増加。カラマツは2月の減少から3月は横ばい、4月は再び減少に。トドマツは3カ月連続減少。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月
スギ	△ 5.0	△ 10.0	△ 10.0
ヒノキ	12.5	0.0	△ 6.3
カラマツ	50.0	50.0	50.0
トドマツ	50.0	25.0	25.0

・スギ、ヒノキの製材用原木の価格動向はやや弱含み。

・カラマツ、トドマツとも強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・間伐の遅れによりカラマツ、トドマツ丸太の出材総量が少ない。通常この時期は皆伐なので、効率の悪い間伐は行わないが、間伐予算が過大であり、人工林が成熟化している現状では全く間違えた政策と考える。年度末まではフル生産で消費する。在庫は特にカラマツが不安定。トドマツも不足感はあるが、使用ウェイトが少ないので何とかなっている（北海道）。

・雪が多く山土場の除雪が追い付かず工場土場の在庫が少ない。春先入荷少ないので危機的。受注は旺盛、原木在庫に合わせた生産調整。在庫は減少し1週間分（北海道）。

・晴天が続く、各所で出材好調。ヒノキ4m土台に関しては引き続き強い（東北）。

・ヒノキ丸太は価格が高いので仕入調整。消費は凍結がなくなるので増加の見通し（関東）。

・入荷は冬木を増加していこうと思っている。春木は傷みやすいので少し抑えるイメージ。製材量は稼働日並みしかできないので消費は横ばい。冬木を増やし春木をできるだけ仕入を抑えるイメージなので、在庫は少しずつ減っていく予定（中部）。

・ヒノキに関しては順調に入荷。スギは相変わらず少なく、特に3m丸太の20cm下のものが少ない。凍結材が多く製材が難しい。一部丸太を乾燥機に入れて凍結を溶かし製材している。非常に効率が悪いが休止してばかりいられない。入荷に合わせて製材量が少ないため、ヒノキ在庫が増えている（中国）。

・2月は雪の影響で入荷が少なくなる。丸太の凍結及び工場設備更新工事のため2～3月にかけて消費は落ち込む（中国）。

・3月から入荷が増える見込み。生産量は増加していく見込み。在庫は5月までは増やす（中国）。

・天候不順にて入荷やや減少。2月は稼働日数少なく消費はやや減少（九州）。

・雪で多少の一時的な不足感があったが、順調な原木出材を見込めるのでは（九州）。

(原木価格)

- 目の前のトドマツ在庫がないことは生産できなくなるため、やむを得ずバイオマス、合板と取り合い（北海道）。
- スギ3m材に関しては供給過多気味。ヒノキ4m土台用材は品不足感が強い（東北）。
- スギは出荷増のため価格は下がる見通し（関東）。
- 出材が少ないが価格は変わらず。ヒノキは出材増と需要の一服感で柱類が若干弱気配（中国）。
- 入札市場は出材減により単価は上がるが、一時的なものと捉えている（中国）。
- ヒノキ丸太は2月、3月は横ばいで4月は下落を予想（中国）。
- ヒノキ丸太は2月に天井価格まで来ている。3～4月は出荷良好、やや下落することを希望する（九州）。
 - 原木不足はまだ解決できていないが、多少に出材による価格変動は一時的に起こりそうだ（九州）。

30年2月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
生産動向	スギ	△ 5.0	10.0	20.0
	ヒノキ	△ 12.5	18.8	31.3
	カラマツ	50.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	△ 50.0	△ 25.0
出荷動向	スギ	△ 10.0	5.0	25.0
	ヒノキ	△ 6.3	0.0	18.8
	カラマツ	50.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 16.7
在庫動向	スギ	△ 15.0	△ 15.0	△ 5.0
	ヒノキ	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 50.0	△ 50.0

・スギ、ヒノキ製材品の生産動向は2月の減少から3月、4月は増加に。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは2月の横ばいから3月、4月は減少に。

・スギ、ヒノキ製材品の出荷動向は2月の減少から3月、4月は増加に。カラマツは3カ月連続増加。トドマツは2月の横ばいから3月、4月は減少に。

・スギ、ヒノキ、トドマツの在庫動向は3カ月連続減少。カラマツは3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
スギ	柱角 KD10.5×3	5.6	△ 11.1	△ 5.6
	柱角 KD12×3	0.0	△ 10.0	△ 10.0
	通し柱 12×6	8.3	0.0	0.0
	桁角	0.0	12.5	6.3
	母屋角	11.1	5.6	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	5.0	△ 5.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	12.5	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	14.3	0.0
柱角 KD12×3		7.1	0.0	0.0
土台角 10.5×4		18.8	12.5	6.3
土台角 12×4		6.3	0.0	6.3
通し柱 12×6		12.5	0.0	0.0
ラミナ		0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	50.0	50.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	50.0	
トドマツサンギ	50.0	50.0	0.0	

・スギ柱角KD10.5cm、12.0cm、間柱やや弱含み。その他の品目は横ばい。

・ヒノキ土台角10.5cm×4mはやや強含み。その他の品目は横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板、ラミナは強含み。

・ドマツサンギは強含み。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・原木在庫に合わせて生産。新規受注はストップし、既存先への安定供給を目指す。生産、即出荷の状態
で在庫減少（北海道）。
- ・スギ製材品は、先月同様新庄での雪の影響で低く推移。3月以降フル稼働に戻っていく。ヒノキは3月、
4月の集成土台出荷に向けて増産。出荷は2月後半は上り調子だったが、時間的問題と雪の影響もあり、動
きが鈍かった。出荷が弱かったのでスギ在庫増。内訳としては4寸系に偏った。ヒノキは需要が安定して
いるため横ばい（東北）。
- ・販売は横ばいの見通しだが、製品在庫が少ないためフル稼働。スギは価格下落が予想されるために多少
在庫増とする（関東）。
- ・稼働議並みの生産。例年通り2月は低調。受注残があり片付けしている状況。3月以降出荷は増える見込
み（中部）。
- ・消費動向と同じ、温かくなって凍結材が減れば増産したい。時期的に構造材の需要は落ちているが、生
産量がそれ以上に落ちているため、出荷に生産が追い付かない状況が続く。在庫は減少が続く（中国）。
- ・丸太の凍結及び工場設備更新工事のため2～3月は生産減少。仕入で生産減を補って出荷している。在庫
は生産、出荷動向に連動してやや減少（中国）。
- ・ヒノキ生産量を上げていく。2且、3月は苦戦するが4
月から増える見込み。在庫は2且、3月は増える見込みで、4月は横ばい（中国）。
- ・3月よりヒノキ製材品の生産増加。出荷は順調に推移する（九州）。
- ・先々のことはあまり言えない
が、生産は一時よりも多少落ち着いてきている印象。在庫は各メーカーが適正な在庫量を保持できている
かによるが、そうなるまでにはもう少し時間がかかるのでは（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・2月、3月でトドマツサンギ値上げ。価格もそうだが安定供給優先（北海道）。
- ・スギ柱KD10.5cmは前月同様落ち着いていたが、逆に生産・出荷のバランスが良かった。柱角12cmは対前
月比で弱かったが価格は据え置き。在庫は4寸系を中心に増加したが、その分は来月以降の需要に対応す
る予定で、無理な出荷はしなかった。（東北）
- ・スギ集成材用ラミナは横ばい見通し。ヒノキ土台角10.5cmは好調で価格は若干上昇となる。12.0cmは価
格上昇せず（関東）。
- ・スギ、ヒノキ製品と10.5cmも品薄感はあるが、不需求期のため動きが悪い（中部）。
- ・スギ、ヒノキとも柱、土台が強い（中国）。
- ・4月に向けてヒノキ土台は上昇する見込み（中国）。
- ・ヒノキ製材品価格は横ばい、上昇を期待している。最小限5,000円/m³値上げ（九州）。

30年2月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/2月	3月	4月
仕入動向	米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・米マツ丸太の仕入動向は2月、3月の増加から4月は横ばいに。NZラジアータは3カ月連続横ばい推移。
- ・米マツ丸太の消費動向は2月、3月の増加から4月は横ばいに。NZラジアータは2月の横ばいから3月、4月は減少に。
- ・米マツ丸太、NZラジアータの在庫動向は3カ月連続横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月
米マツ丸太	0.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・製材用原木の購入価格動向は、米マツ丸太弱含み。NZラジアータは横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ製品の荷動き、出荷、在庫動向は、NZ製材品の注文減により、スギ製材品の注文増加。

(原木価格動向)

・NZ製材の注文減により横ばい。

30年2月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月
生産動向			
米マツ製材品	50.0	50.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	△ 50.0	50.0	100.0
NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	100.0	50.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は2月、3月の増加から4月は横ばいに。NZラジアータ製材品は2月の横ばいから3月、4月は減少に。

・米マツ製材品の出荷動向は2月の減少から3月、4月は増加に。NZラジアータは2月の横ばいから3月、4月は減少に。

・米マツ製材品の在庫動向は2月、3月の増加から4月は横ばいに。NZラジアータ製材品は2月の横ばいから3月、4月は減少に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/2月	3月	4月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格動向は平角、正角、小割とも横ばい。

・NZラジアータ製材品は梱包材（割板・割角）、土木用材とも横ばい。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

・NZラジアータ製品の荷動き、出荷、在庫動向はNZ製材品の注文減により、スギ製材品の注文増加。

(製材品出荷価格動向)

・NZ製材品の2月値上げ完了によりNZ製材品離れ、スギへの注文に変化している。